



こくろうよなご

第11号
2025年2月10日
発行責任者 倉下文明
編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

両労組で安全を誓う！！

伯備線触車事故から19年

1月24日は、伯備線触車事故で3名の尊い生命が奪われてから19年目の日を迎えました。午前中は、地本事務所に於いて「安全考動計画監視委員会」を開催、西日本会社の安全対策の現状と課題について交流し、午後からは、事故の発生した13時18分に事故現場近くに建立してある「安全碑」前にて、西労組米子地本との合同による「追悼献花式」を執り行いました。事故の反省と教訓を風化させることなく、安全な職場づくりに向け奮闘していく決意を固め合ってきました。



午前中の「安全考動計画監視委員会」に先立ち、参加者全員で黙祷を行い、事故でお亡くなりになった3名の仲間の御霊に哀悼の意を表してきました。「伯備線事故追悼日」としての一日行動にあたり倉下委員長から「事故から19年目となるが、今も触車・感電・労災等の重大労災が後を絶たない。また、

昨年は、JR各社で重大事故に繋がりがねない事象が多発するなど、JRグループの安全が大きく揺らいでいる。また、自己責任・自助努力が蔓延する中で、安心して働ける環境にあるのか、一日を通してしっかりと振り返り明日からの活動に活かして貰いたい」と挨拶があり、職場実態の交流に入っていました。「ダイヤ改正から特急列車のワンマン運転が実施されるが高速運転であり、安全が保てるのか大いに懸念がある」（運転士）、「5分前が3分前待避に変更となるが、駅間など勘違いした場合、触車に繋がるリスクが高まる」（工務）、「シニア社員が多く、若手は少ない。



入換作業で事故が起きたが、何年も作業をしてない人が作業にあたるている」（車両所）「作業を止めたことでは表彰があったが、なかパフォーマンス的なものを感じる」（電気区）「新規配属者の見習い期間が短い。指導職の資質にも問題を感じる」とある。「駅（駅舎）」「みどりの窓口が少なく、技実継承に支障がある。駅員への負担も大きく、異常時対応が大変。駅員の減少は、乗務員への負担となつている」（駅営業）「安全報告など小さなミスが多くなっている。要員を削られ、仕事こなす為目一杯働く。愚痴や陰口も多く、ストレスのたまる環境にある」（駅運転）など、報告されていきました。午後からの合同献花

式に向かう途中、献花式参加者全員で事故現場に立ち寄り、事故でお亡くなりになった3名のご冥福をお祈りし、「安全碑」前での合同献花式では、西日本本部を代表して植田委員長から挨拶を頂きました。その後、米子地方本部を代表して倉下委員長が「安全の誓い」として、「事故を知らない世代にもしっかりと継承していく」「両労組が協力し、安全な職場づくりを目指す」とを表明してきました。

春闘の原動力は職場実態に！

1月27日、東京都交通ビルにて「第195回拡大中央委員会」が開催されました。委員会では25春闘要求として、基本給の6.1%、金額にして17000円の賃上げ要求が決定し、要求獲得向け全力で奮闘して行く事が意思統一されました。その他、委員会からの発言では、安全問題・ローカル線問題・組織拡大の取り組みなどを中心に議論がなされてきました。中でも「業務の融合化が進み、社員が疲労困憊で働かされていること」「女性活躍などと言われながら、仕事と子育てが両立できない現状へのもどかしさ」などの報告を聞きながら、春闘を闘う原動力は職場・生活実態にある事を再認識しました。

進む少子高齢化・課題は！？

1月23日、12月の伯耆町に続いて伯備線がとおる日野町を訪問し、交通政策・地域活性化を担当する職員さんと公共交通を取り巻く現状やJR会社への要望など、率直に意見交換を行ってきました。

はじめに日野町の交通政策担当の職員さんより、日野町独自の取り組みという事で「町営タクシー」の運行について説明を受けました。既存の「町営バス」を、より利用実態に即したものに改良したもので、補助金などにより料金も手ごろな設定としてある為、町民の方は勿論のこと、観光客などにも好評を頂いていると言われている。少子高齢化が進む中で、公共交通の整備は重要課題であると



ホームに設置してある椅子を増やすことには出来ないかと言われていました。また、ガソリンの高騰を受けて、今後公共交通見直しの機運が高まるのではないかと、乗れば寝ようが本を読もうが気楽さ列車の良さなどもっとアピールするべきなどの激励も頂きました。引き続き、自治体訪問を続けていきます。